JAFXボーツWEB

2018年JAF全日本ジムカーナ選手権第5戦 2018年JMRC北海道ジムカーナシリーズEXラウンド オールジャパンジムカーナ [JAF公認No.2018-8205]

> 開催日: 6月16~17日 開催場所: オートスポーツランドスナガワ 格式: 国内 主催: CSCC 「クラブ登録No.加閉010241、AG.MSC北海道「クラブ登録No.公認01001]

フォト/加藤和由、JAFスポーツ編集部 レポート/ JAFスポーツ編集部



全

日本ジムカーナ選手権のシリーズ 前半を締め括る第5戦は北海道オ ートスポーツランドスナガワで開

催された。

石狩川の河川敷に広がる同コースは、フラットな高速コース。コースの大半は大小の島が配されたコースジムカーナになるが、コース端部、パドック手前はパイロンセクションとなっており、8の字、タイトスラローム等をこなしてゴールというのがスナガワの定番だ。

広さで言えばコース全体の1/4程度のこのパイロンセクションの出来不出来がタイムに直結

するとあって、高速コースとは言え、"踏んだモン勝ち"になるとは限らず、オールラウンドな技が求められる。加えてコース部分とパイロン部分の路面グリップが異なるのも大きな特長で、それを踏まえたドライビングもポイントだ。

こうした路面の特長も影響してか、ここスナガワはヒート2でタイムアップを果たすことも容易ではなく、時にヒート1のタイムで勝負が決することも。今回も各クラスで2本のタイムが拮抗し、ヒート2でタイムダウンする選手も少なくなかった。

ND5RCロードスターの事実上のワンメイ

クとなったPN1クラスでは、ヒート1、青森の上野健司選手が1分34秒474で暫定トップに立つ。ヒート2、地元北海道の米澤匠選手がヒート1のペナルティを挽回する1分34秒041を叩き出してベストを塗り替えるが、その後のドライバーは35秒台に止まり、ラス前の福田大輔選手も34秒965とタイムダウンに終わってしまう。

ラストゼッケンの斉藤邦夫選手も前半は米澤 選手に0.4秒のビハインド。米澤選手の地元で の全日本初優勝の気配が濃厚になるが、ゴール した斉藤選手のタイムは34秒台を突破する1

分33秒816。土壇場で





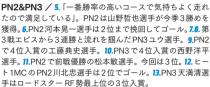


PN1 / 1.2.ホームコースで全日本初優勝にあと一歩に迫った米 澤麗選手だったが(1.左& 2.)、斉 藤選手の完璧なパイロンワーク にその夢は阻まれた。3.暫定首位 を奪うも逆転を許し、3位に甘ん じた上野健司選手。4.ポイント リーダーの福田大輔選手は4位 にとどまった。

















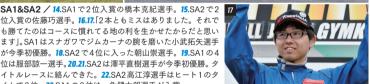
















逆転を果たした斉藤選手がシーズン2勝めをマ ークした。

イムで3位。23.SA1の3位は一色健太郎選手が入賞。

「皆、タイムダウンしてたけど、2本め、スタ ートした直後は、"これくらいなら攻められる な"というグリップ感だった。コース主体の前 半部は1本めもライバル達に負けてたから、そ こを同じタイムで走ろうとしてペナルティを受 けるリスクを背負うよりは、昨日から調子よか ったパイロンをうまく走ろうとしたんだよ。実 際、ここで1本めミスしたり、足りなかった所 を修正できたことがタイムアップに繋がったと 思う | と斉藤選手は後半区間で0.5秒詰めたこ とを真っ先に勝因にあげた。

PN3クラスは2連勝と調子を上げてきたユ

ウ選手がヒート1、 唯一の1分33秒



27. 台数不足により不成立となってしまったSA4クラスは津川 信次選手がトップタイムをマークした。28.同2位のタイムを マークした村上公一選手。

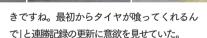
JMRC北海道シリーズEXラウンド/ 24.86/BRZクラスは目黒賢一選手が優 勝。25.R-1クラスは綱島寛太選手が優勝。 26.R-2クラスでは逸見将吾選手が優勝。

台をマークして暫定トップに

立つ。しかしペナルティを引いたタイムでは西 野洋平選手が同じく33秒台でユウ選手を上回 り、ミスコースに終った川北忠選手の存在もあ って予断を許さない情勢だ。

しかしヒート2に入るとこのクラスもタイム ダウン傾向が顕著に。川北選手も34秒台にと どまり、西野選手も35秒台でゴール。一方、 結果的にウイニングランとなったユウ選手は 33秒123までタイムを上げる快走を見せ、3連 勝と今回も強さを見せつけた。

タイムを見れば完勝だが、斉藤選手同様、前 半区間はライバルに先行されたことについて は、「1本めも2本めも、前半は昨日の路温の 記憶が残ってて微妙にリズムが合わなかった| とユウ選手。「だから、途中からヤバイと思っ て一生懸命合わせたんです | と決して楽勝でな かったと明かした。「こういう中途半端な気温 の方がどっちかという苦手なんで、夏の方が好



一方、SA2クラスはヒート1から、暫定首位 の高江淳選手に佐藤巧選手が0.007秒差で続 くという白熱した展開に。ヒート2では佐藤選 手が1分32秒528までタイムを上げたのに対 して、高江選手は痛恨のパイロンタッチ。勝負 あったかと思われたが、ラストゼッケンの澤平 直樹選手が32秒196までタイムを上げて今季 初優勝を飾った。

「ずっと勝てなくて気持ち的には追い込まれた 週末でしたが、前向きに持っていけるようメン タルをコントロールできたと思います。苦手な 前半の高速区間で皆に負けないセットが出せ て、セオリー通りの高速の走らせ方ができたの が勝因だと思います」。関東出身のパイロンス ペシャリストだけに、コース区間を攻略できた 結果の勝利に最後は安堵の表情を見せていた。